

ラグビーワールドカップ（RWC）をきっかけに、インバウンド対策とラグビーによる地域活性化に取り組む小田原市の姿をレポートする。

1. 大会概要と日本開催の意義

<概要>

- 1987年の第1回大会以来、4年に1度開催されており、今回が9回目。
- 開催期間は2019年9月20日から11月2日までの44日間。
- 日本各地の12都市で開催。決勝、準決勝は横浜国際総合競技場で実施。

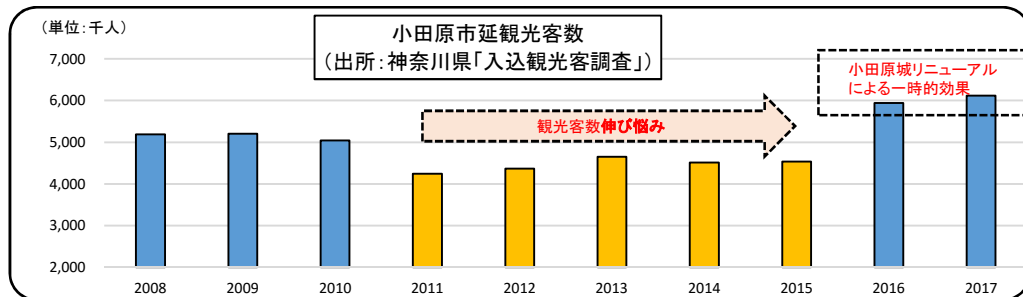
<意義>

- 翌年の五輪と、世界3大スポーツイベントの2つが2年連続で開催される経済的インパクト。
- 開催期間が長く、試合が各地で行われるため、経済波及効果が日本全体に及ぶ。

2. 行政による取り組み

(1) 背景

交流人口増加のための重要施策である観光において、東日本大震災後、延観光客数が伸び悩み、新しい観光コンテンツの発見・創出の必要性が高まっていた。



(2) 具体的な取り組み

① 観光政策

<インバウンド向けのインフラ整備策>

- 看板、ガイド、食事メニュー等の多言語対応、Wi-Fi環境の整備。
- まち歩きアプリケーション「小田原さんぽ」の開発・運用（AR機能を利用した仮想空間体験等）。

<インバウンド需要取り込み策>

- 小田原城歴史見聞館を体験型施設『NINJA館』としてリニューアル。

- RWC開催と同日に小田原城天守閣をスクリーンとしたプロジェクションマッピング世界大会を予定。

<その他の観光施策>

- 箱根等との広域での観光推進、説明板や案内サイン設置、バス運行等による回遊性促進、ウォーキングコース整備。
- 市民しか知り得ない観光スポットを組み入れた回遊プランの作成。

② 地域活性化策

- 2015年6月に、日本ラグビーフットボール協会、神奈川県、小田原市でRWC成功に向けた連携・協力等を内容とする「基本合意書」を締結。
- 上記合意書に基づき、練習グラウンドとなる城山陸上競技場を改修、国内ラグビー大会や合宿、各種ラグビー普及イベントを多数実施。
- オーストラリア代表チームの事前キャンプの誘致活動を展開し、成功（2018年10月28日～11月3日に15人制代表「ワラビーズ」が1回目のキャンプを実施。2回目は大会直前の9月に公式キャンプとして実施される予定）。



(オーストラリア代表との交流)

3. 行政以外の取り組み

<小田原箱根商工会議所>

- 事業者向けに「外国人おもてなし語学講座」を開催。
- 外国人観光客向けPRのための「POP講座」を開催。

<駅前おしゃれ横丁商店>

- 空き店舗を活用して、日本文化を体験できるスペースを開設。
- 旅行会社と組んで外国人観光客に対して1時間程度の街歩きツアーを計画。

<お堀端商店街振興組合>

- 毎年7月の「氷の彫刻コンクール」や春と秋に商店街をバルーンアートで装飾する事業を実施。
- 商店街を利用したストリートラグビーの開催を検討。



(外国人おもてなし語学講座の様子)

4. 今後の展望

- インフラ面では、キャッシュレス化がどれだけ進むかが一つの注目点。
- ワラビーズの再訪問となる公式キャンプ時の市の再プロモーションと選手等との個人レベルでの交流深化によるSNS等でのPR拡大に期待。
- 東京五輪での7人制のオーストラリア代表「セブズ」の応援にも力を。
- “ラグビーのまち”としては後発の小田原市のインバウンド対策、地域活性化の取り組みは成功しつつあり、これからも応援していきたい。